

日本遺産の追加認定について

5月20日、加賀市、輪島市、小松市を含む全国32市6町が認定されている日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船（きたまえぶね）寄港地・船主（せんしゅ）集落～」について、金沢市を含む全国5市2町が追加認定された。

また、小松市が認定されている日本遺産「『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」については、構成文化財5件が追加された。

1 日本遺産について

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語るうえで不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。

2 「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」の認定自治体について

H29 代表 酒田市 (山形県)、函館市・松前町 (北海道)、鱒ヶ沢町・深浦町 (青森県)、秋田市 (秋田県)、新潟市・長岡市 (新潟県)、加賀市 (石川県)、敦賀市・南越前町 (福井県) 7市4町

H30 小樽市・石狩市 (北海道)、野辺地町 (青森県)、にかほ市・男鹿市・能代市・由利本荘市 (秋田県)、佐渡市・上越市 (新潟県)、富山市・高岡市 (富山県)、輪島市・小松市 (石川県)、坂井市・小浜市 (福井県)、宮津市 (京都府)、大阪市 (大阪府)、神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市 (兵庫県)、鳥取市 (鳥取県)、浜田市 (島根県)、倉敷市 (岡山県)、尾道市・呉市 (広島県) 25市2町

R元 鶴岡市 (山形県)、出雲崎町 (新潟県)、金沢市 (石川県)、姫路市・たつの市 (兵庫県)、多度津町 (香川県)、竹原市 (広島県) 5市2町

《構成文化財》

金沢市：観田家住宅・主屋・西塀・西蔵、本龍寺鐘楼、粟崎八幡神社奉納絵馬額面 など

3 「『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」の追加された構成文化財について

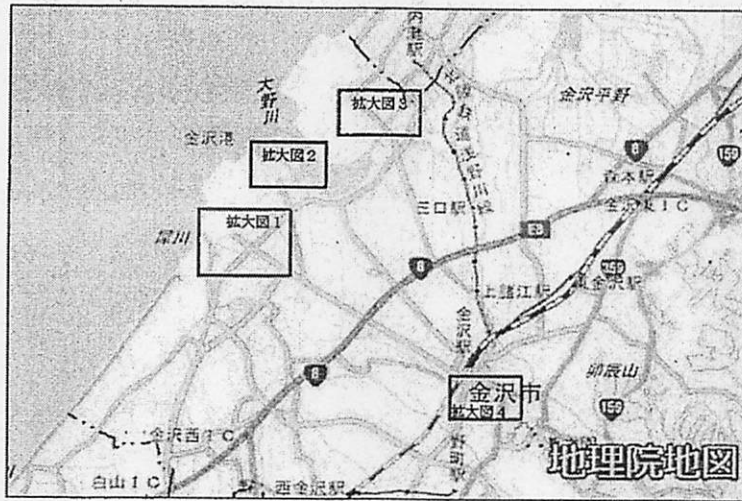
「日用川の石垣」、「那殿山のメノウ産出地と奇岩及び周辺建物」、「八幡を中心とする九谷焼の陶彫 (置物)」、「安宅愍念寺のたんころ石の擁壁」、「滝ヶ原石の石材加工技術」 5件

金沢市の構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
41-①	銭屋五兵衛家年々留附留帳 <small>ねんねんりゅうぶりゅうちやう</small>	県有形 (古文書)	北前船で財をなした豪商・銭屋家の家訓や盛時の動向を伝える。五兵衛肉筆の日記。
41-②	専長寺 松帆榭 <small>せんちやうじ しょうはんしゃ</small>	市有形 (建造物)	北前船で財をなした豪商・銭屋五兵衛隠居所の茶室。北前船で運ばれた仏具や庭石が残る。
41-③	中山家関係資料	県有形 (歴史資料)	北前船により繁栄した宮腰の歴史を顕す、町の年寄役家に伝わる資料。
41-④	親田家住宅・主屋・西塀・西蔵	国登録 (建造物)	北前船で財をなした廻船問屋・湊屋佐太郎の住宅。
41-⑤	<small>かないや</small> 金石こまちなみ保存区域	市こまちなみ 保存条例	北前船により繁栄した宮腰の古い町並み。町屋や廻船問屋が往時の風情を醸す。
41-⑥	大野湊神社関係資料(大絵馬)	市有形 (歴史資料)	北前船により繁栄した宮腰が描かれた巨大な絵馬。
41-⑦	本龍寺 鐘楼	市有形 (建造物)	北前船主が寄進した鐘楼。境内には銭屋五兵衛の墓も静在。
41-⑧	<small>あわがさきはちまんじんしゃ</small> 粟崎八幡神社奉納絵馬額面	市有形民俗	北前船で財をなした豪商・木谷藤右衛門らが寄進した絵馬群。
41-⑨	紙本著色 <small>ねんこしんけいのず</small> 蓮湖真景之図	市有形 (美術工芸品)	大野川の東西の岸を描いた2巻計33尺の絵巻物。北前船船主たちの家々が描かれている。
41-⑩	大野こまちなみ保存区域	市こまちなみ 保存条例	北前船により繁栄した大野の古い町並み。北前船船主たちの家々が並ぶ。

※41は認定された全国の自治体の通し番号

金沢市の構成文化財の位置図



拡大図 1



拡大図 2



拡大図 3



拡大図 4



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～
(金沢市の主な構成文化財)



観田家住宅・主屋・西塀・西藏 (国登録有形文化財建造物)



本龍寺 鐘楼 (金沢市指定有形文化財建造物)



粟崎八幡神社奉納絵馬額面 (金沢市指定有形文化財建造物)

小松市の構成文化財（追加分）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
③②	ひょうがわ いしがき 百用川の石壇	未指定	19世紀後半頃、地震で破損した小松城石垣を修復にきた人足が、日用の有川家に逗留し構築したとの伝承が伝わる。近世末期の地元石材による護岸石垣。
③③	なでんやま きんしゅつち 那殿山のメノウ産出地 と奇岩及び周辺建物	未指定	懸造りの本堂（那殿観音）は昭和34年の建物。奇岩や窟（いわや）状の地形もあり、那谷寺と並び、古くからの信仰の場であった可能性が高い場所。オパール・メノウの採掘地であった歴史もある。
③④	やねた 八幡を中心とする くたにやま とうちよう おきもの 九谷焼の陶彫（置物）	未指定	明治3年（1870）に開窯した松原新助により、小松八幡で創始された彫陶（置物）製作技術と型。勝木作太郎など、多くの名工を生みだし、今に受け継がれている。小松九谷の特徴の一つで、「連房式登窯」と関係の深い資産。
③⑤	あたくみんねんど 安宅愍念寺の たんころ石の擁壁	未指定	現本堂は、文政13年（1830）の建築で、擁壁は明治時代の造成と考えられる。たんころ石は、地元凝灰岩を割り抜いた円形の建築部材で、土止めや基礎とした。安宅町内に多く残存し、近代の石文化を示す土木遺産としても貴重。
③⑥	たきがはら いし せきざい かこう 滝ヶ原石の石材加工 技術	未指定	地元滝ヶ原石による伝統的な彫刻作成技術。同石材による作品は、市内各所にあり、石切り場とともに石文化の継承に欠かせない工芸技術。

「珠玉と歩む物語」小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
(追加された主な構成文化財)



日用川の石垣



安宅愍念寺のたんころ石の擁壁



滝ヶ原石の石材加工技術